

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (北海道)		一般小売店〔土産〕（経営者）	・地元客相手の商売は人手不足も加わり、売上が相当落ちていて、悲鳴が多く聞こえる。一方で、許認可権を持つ行政も少子化のスピードに対応ができず、先の明るさは見えてこない。行政に対する不満の声が日増しに高まっている。
		コンビニ（エリア担当）	・一昨年の台風被害の影響で、前年から復旧に向けてかなりの公共工事が行われている。復旧が進んできていることに伴い、来客数も回復していることから、今後の売上は向上することになる。
		旅行代理店（従業員）	・現状では夏場の観光繁忙期に向けてのマイナス要素が見当たらない。7～8月には海外とのチャーター便が2年半ぶりに復活する予定もあり、国内客及び外国人観光客の増加が見込まれる。
		商店街（代表者）	・今後については観光のハイシーズンとなるため、景気はやや良くなる。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・ここ2～3か月、売上が好調であり、年内はこの好調さが続くと思われる。
		百貨店（販売促進担当）	・気温の上昇とともに夏物衣料や季節商材の動きが活発になってきており、今後もこの傾向が続く。また、外国人観光客の来店が安定したプラス傾向で推移していることも、数字の押し上げに寄与する。
		スーパー（役員）	・前年8月は異常なほどの低温で夏物が全く売れなかったが、今年は長期予報で気温が高めで推移するとみられていることから、消費が活発になることが期待できる。
		衣料品専門店（店長）	・クールビス関連商材の売上が落ち込んでいるが、オーダースーツが売上を伸ばしているなど、スーツの指標が落ち込んでいないため、今後についてはやや良くなる。
		家電量販店（経営者）	・季節要因による景気回復が多少なりとも期待できる。今年は猛暑が予想されることから、特にエアコンなどの販売量の増加が見込まれる。
		乗用車販売店（経営者）	・当社主力の新型車が発売となり、受注も順調に獲得できている。この傾向は当面続くと思われるため、景気はやや良くなる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・7月の芸能イベント、8月の大型学会共に、予約が好調に推移していることから、今後の景気はやや良くなる。
		通信会社（企画担当）	・通信サービスに附帯するサービスの強化を進めていることで、当面は加入者の増加が期待できる。
		美容室（経営者）	・5～6月と不順な天候が続いていることで来店を控えている客がみられ、売上がやや減っているが、今後については、その反動で景気が良くなることを期待している。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・気温の上昇とともに観光客の増加が見込まれるため、今後の景気はやや良くなる。
		住宅販売会社（経営者）	・建築関係については、そろそろ消費税増税を控えての駆け込み需要が動き出してくることが期待できる。水産関係については前年よりも水揚げが増えることを祈っている。
		商店街（代表者）	・外国人観光客は依然として東南アジアからの集客が好調であり、今後も百貨店を中心に好調が続くなど、景気は変わらないまま推移する。商店街への来客も多く、夜11時を過ぎても多くの通行があるため、今後は店舗側の対応も求められそう。
		百貨店（売場主任）	・現在の好調さは外国人観光客に支えられているが、前年の7月頃から外国人観光客による消費が復調していたことから、今後は外国人観光客の効果が一巡することで、これまでのような伸びが見込めない。
		百貨店（役員）	・売上は若干回復の兆しがみられるが、安定した状態とまではいえないため、今後も景気は変わらない。
		百貨店（営業販促担当）	・客の買物傾向をみると、目的買いに偏ってきている。催事などで一時的に集客が増えても、全体への波及効果は弱く、緊急性の少ない商材については今後も苦戦が続く。客の節約傾向はまだしばらく続く。
		スーパー（店長）	・スーパー各社の価格競争が激化していることで客単価の低下を招いている状況であり、今後についても景気が好転する要素がない。
	スーパー（店長）	・経済環境に大きな変化がみられないため、今後の消費動向も変わらない。	
	スーパー（店長）	・景気変動の要因が見当たらないため、今後も景気は変わらない。	

スーパー（店長）	・ここ最近、自社店舗間での競合による影響が大きくなっている。リニューアルしている店舗が増えているが、当店は開店以来、一度もリニューアルしたことがないため、客足が遠のいている傾向にあり、今後も厳しいまま変わらない。
スーパー（企画担当）	・競合他社の大幅な価格引下げが目立ってきており、当社としても対抗せざるを得ない状況となっている。根底には生活防衛意識の高まりから、消費者が価格に敏感になってきていることがあり、今後の景気は厳しいまま変わらない。
コンビニ（エリア担当）	・7月以降も気温が低いまま推移するとみられるため、今後も売上が回復しないまま推移する。
コンビニ（エリア担当）	・景気が良くなる要素が見当たらないため、今後も悪いまま変わらない。これから夏場を迎えるが、客の来店頻度や購買量は天候次第で大きく変わることになる。前年7月は気温が高かったため、商材の動きが良かったが、今年の天候次第では前年から大きく減少する可能性もある。
コンビニ（店長）	・景気が良くなるような理由が見当たらない。
衣料品専門店（店長）	・来客数、買上客数共に上向いてこない。高単価の商材にも動きがみられないため、売上が安定しておらず、景気が良くなっているとは判断できない状況にある。
家電量販店（店員）	・7月以降の気温の上昇に期待している。
乗用車販売店（経営者）	・新型車の発売予定がないことが影響している。市場を押し上げる要因が見当たらないため、今後も景気は変わらない。
乗用車販売店（従業員）	・新商材が出た割に伸びがみられないため、今後については現状維持で推移する。
自動車備品販売店（店長）	・車の販売量は中古車こそ伸びているが、新車が低迷しており、今後の見込みは良くない。ただ、車検やオイル交換といったメンテナンス需要は伸びているため、新車販売が伸びてくれば回復基調に転じることになる。
高級レストラン（経営者）	・地方は都会のように景気が上向くことがなかなか現れてこない。例えば、北海道の場合、札幌には国内観光客も外国人観光客も数多く訪れ、にぎわいが生じるとともに消費も上向きになり、景気が良くなっているが、地方にはその恩恵が余りない。そのため、景気は今後も変わらない。
高級レストラン（スタッフ）	・景気は悪くないのかもしれないが、客単価が上がらないなか、原材料費が高止まりしていることで、利益が上がってこないため、景気回復への期待感が余りない。
観光型ホテル（役員）	・今後の先行予約状況が芳しくない。特に国内個人客の動きが鈍く、夏休みシーズンに向けての来客数の伸びが余りみられない。
旅行代理店（従業員）	・好調を維持していることから、今後も変わらないまま推移する。
旅行代理店（従業員）	・特に景気が良くなる要素が見当たらないため、今後も変わらないまま推移する。
旅行代理店（従業員）	・特別なイベントなどがいないため、今後も景気は変わらない。
タクシー運転手	・夏の観光シーズンを迎えて、観光客が増えることになると、前月までの状況から、タクシーの利用が増えることまでは考えられない。
タクシー運転手	・予約状況や問合せ状況から、今後も景気はそれほど変わらないまま推移する。外国人観光客による利用も例年並みで推移する。ただ、これからイベント関係の需要が増えてくる時期であるため、少しは期待している。
タクシー運転手	・当業界にとっては人手不足が顕著であり、閉塞感がある。この状況を打破できなければ、景気の好転を感じることはできない。
通信会社（社員）	・消費動向が急激に改善することは考えられないため、今後も景気は変わらない。
観光名所（従業員）	・例年と比べて良好な天候条件が継続しており、今後もその傾向が続くと見通せることがプラス要因としてあるが、客層がこれまでの高単価の個人客中心としたものから、低単価の団体客の比率が高まる傾向を見せ始めていることがマイナス要因としてあり、当面はプラスマイナスゼロで推移する。
観光名所（職員）	・天候が安定しないなかでも、外国人観光客を中心に来場者が堅調に推移していることで、どうにか前年実績をクリアできている。今後も観光のトップシーズンに向けて、外国人観光客が好調に推移することが見込まれるため、景気は変わらないまま推移する。
美容室（経営者）	・客の様子から、生活の安定感がうかがえる。そのため、大きな災害や天候不順などが無い限り、今後も同じような消費傾向が続く。

	商店街（代表者）	・骨太の方針に消費税増税対策が明記されたことから、高額商材の購買時期について客が迷いをみせている様子がうかがえる。	
	商店街（代表者）	・近年、当地を訪れる観光客は周辺の地域も訪れる傾向があるため、当商店街において観光客による売上が増加することは余り見込めない。また、今後については夏祭りなどの地域のイベントがほぼ終わるため、地元客も含めて売上が伸びるような要因は見当たらない。	
	百貨店（担当者）	・夏物のセール需要が落ち着き、その反動で若干の買い控えが見込まれるため、今後の景気はやや悪くなる。	
	スーパー（役員）	・食料品及び酒類については、メーカーでの値上げが進むなかで、ドラッグストアやホームセンター、ディスカウントストア、スーパーマーケットといった業態で値引きやポイントサービスなどの動きが激しく、価格競争が激化している。また、公共料金やガソリンなどの値上げにより、消費者の家計状況の厳しさが買物動向にも影響を与えている。これらのことから、今後の景気はやや悪くなる。	
	コンビニ（エリア担当）	・地域の基幹産業である漁業の見通しが上向いてこないため、今後の景気はやや悪くなる。	
	乗用車販売店（従業員）	・当業界ではこれから夏枯れの時期となるため、決算月である9月までは厳しくなるとみられる。ただ、これまでの状況から景気が極端に落ち込むことはない。	
	乗用車販売店（従業員）	・販売量や在庫台数の減少が見込まれるため、今後の景気はやや悪くなる。また、働き方改革に伴い、残業時間の削減が進むことで若手社員の収入が減ることになれば、消費にも影響が生じる。	
	高級レストラン（スタッフ）	・これまで当施設への来客数は順調に伸びてきていたが、ここにきて減少傾向がみられるようになってきていることから、今後の景気はやや悪くなる。	
	タクシー運転手	・全体的な景気回復がみられない限り、業界の景気回復は無理だとみている。様々なことが要因ではあるが、当地では特に人口減少、人材不足の問題が大きく、まずは経済がうまく回るように考えることが必要である。	
	タクシー運転手	・サッカーワールドカップの日本戦がない日も人の動きが余りみられないことから、消費控えが起きているとみられ、今後の景気はやや悪くなる。	
	パチンコ店（役員）	・今後の景気については、原油価格の動向次第とみられ、これまでの状況からはやや悪くなるとみている。	
	美容室（経営者）	・来年の消費税増税が決まりつつあるような雰囲気があるため、今後の景気はやや悪くなる。	
	住宅販売会社（経営者）	・分譲マンション市場では高額物件の需要がかなり落ち込んできている。全体的な分譲価格の高騰も依然として続いており、市場全体がやや縮小傾向にある。また、消費税増税による駆け込み需要の発生はもう少し先のことになるとみられる。	
	×	スナック（経営者）	・観光客の入込は増えているが、地元の景気が悪く、観光客の来店も少ないため、今後の景気は悪くなる。
	×	タクシー運転手	・景気回復の実感がなく、今後への増収要素が見当たらない。
企業 動向 関連  (北海道)		その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・大型案件などの受注量が増えており、今後も仕事量が見込めることから、景気は良くなる。特に省力化などの設備投資に期待感がある。
		建設業（経営者）	・土木、建築共に受注が進むと同時に稼働率が上がることが期待できる。ただ、前年と比べると公共工事がやや落ち込むことが見込まれるため、余り繁忙感はないとみられる。
		建設業（従業員）	・建設単価高騰の影響を受けてこれまで発注を見合わせていた工事が、工事費調整のための設計変更手続を経て発注されることが見込まれるため、僅かだが今後の発注量が増えてくることになる。
		建設業（役員）	・今後の受注工事の進捗よくに伴い、上半期は出来高の順調な積み上がりが見込まれる。ただし、公共工事の減速見込みや人手不足、働き方改革に伴う労務費負担の増加など、道内建設業界を取り巻く環境には懸念材料も多い。
		輸送業（営業担当）	・天候がほぼ順調に推移していることで、例年よりも農作物の生育状況が良いため、今後についてはやや良くなる。前年の農作物関連品が倉庫に在庫されているため、秋までのつなぎも見込める。

	金融業（従業員）	・大阪北部地震の影響が懸念されるものの、LCC効果などにより、外国人観光客の入込数の増加が続き、関連消費は引き続き堅調に推移する。また、個人消費も今春の値上げ効果の浸透によって持ち直しの動きが強まり、道内景気は3か月前と比べてやや良くなる。
	コピーサービス業（従業員）	・個人消費が上向いている状況がしばらく続き、それに伴い企業の景況感もやや良くなる。
	食料品製造業（従業員）	・受注量の急減速の原因がよく分からないため、今後の動向については正直判断が付かない。
	家具製造業（経営者）	・大都市圏を除けば市況は低調であり、特に家具の動向は芳しくない。ただし、北海道の特徴である道産広葉樹の利活用に光明が見える。
	輸送業（支店長）	・上期は期待を上回る貨物量で推移する見込みであるが、作業員や乗務員といった実働部隊の人手不足にまだ改善の兆しがなく、利益が増える要素が乏しい。
	通信業（営業担当）	・大きく景況感が上向く材料に乏しいことから、今後も現状のままで推移する。
	司法書士	・現在の経済状況は可も不可もない状況であり、多少の動きが出てきても景気に大きな変化はないまま推移する。
	司法書士	・円安や原油高によるガソリン価格の高止まりなど、景気が回復する要因が見当たらない。不動産取引や住宅の新築着工などの増加も見込めないため、景気が上向く気配はなく、現状維持のまま推移する。
	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・現在の人材不足が短期間で解消されるとは到底考えられないため、今後も厳しいまま変わらない。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・現在の状況がしばらく続くことになる。
	食料品製造業（従業員）	・設備更新により生産体制を変更し、工場の稼働時間が長くなる見込みだが、遅い時間帯の人員確保が難航している。
	x	-
雇用関連 (北海道)		-
	人材派遣会社（社員）	・道内ではこれから短い夏の書き入れ時となり、企業の営業活動は活発となる。販売及びキャンペーン系の人材の需要も高まり、企業の業容の拡大が見込める。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・企業の多くは活力ある若年労働者を求めているが、現状は、20～30代前半の応募者が少ない傾向にあるため、今後も雇用動向は大きく変わらない。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・人材は必要だが募集しても集まらないため、現有的人材でやりくりする傾向が強くなっており、今後も景気は変わらない。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・天候不順が基幹産業である農業の動向に影響を与えることが懸念される。また、観光客、特に外国人観光客の入込の伸びがやや縮小していることもマイナス要因となる。
	職業安定所（職員）	・月間有効求人数が前年を下回ったが、新規求人数は前年を上回っており、しばらくは求人倍率が前年を上回る傾向が続く。
	職業安定所（職員）	・5月の有効求人倍率は7か月連続で前年を上回り、業種によっては人手不足の状況が深刻化している。
	職業安定所（職員）	・現状、雇用失業情勢に大きな変動をもたらす要因が見当たらない。
	職業安定所（職員）	・イカ漁は資源量が減少傾向にあり、今年も低水準の水揚げが見込まれることから、イカを原料とする食料品製造業の業況に不安がある。
	学校〔大学〕（就職担当）	・住宅産業や自動車関連、小売などで消費者の動きが良くなりそうな条件があれば、景気の上向きを期待できるが、現状ではほぼ期待できない状況にあるため、今後も景気は変わらない。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・正社員については引き続き求人難が続いているが、アルバイト、パートに関しては以前より採用しやすい状況となっており、求人数が減少している。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・市場の縮小に伴う設備投資の抑制、住民の高齢化に伴う個人消費の落ち込みなど、こうした状態が今後も長期間にわたって続きとみられることから、雇用情勢も変わらないまま推移する。
	x	-